

「病とともに生きる」を援助する クロニックイルネスの視点から

医療の進歩は、伝染病等を含む多くの急性疾患の治療法確立に成功してきました。「不治の病」とされてきた癌や HIV ですら、根治に至らないまでも従来では考えられない平均余命を実現しています。

しかし、こうした医療の進歩は「急性から慢性」という疾病構造のシフトをもたらしました。疾病構造の慢性化は、保健医療財政を圧迫すると同時に、患者・医療者に、新たな治療・ケアについての考え方を要求しています。

本特集では、すべての慢性疾患に共通する援助のあり方を考えます。「治療」というはっきりした目的を持つ急性期看護とも、「死」を見据えるターミナルとも違う慢性疾患看護は、いわば「中腰」の姿勢を医療者に求めるでしょう。いまだ確立していない慢性疾患看護の考え方、スキル、立ち位置を探る素材を提供します。

「クロニックイルネス」とは何か？ ● 1062 ページ

クロニックイルネス（慢性の病）は、従来の医療モデルを越えたケアモデルを医療者に求めます。その概念、期待されるケアモデルについて述べます。

健康格差社会における慢性疾患 糖尿病を中心とした生活習慣病に関して ● 1072 ページ

巷間で話題の「格差社会論」、医療界でも「健康格差」の話題をしばしば耳にするようになりました。慢性疾患を格差社会の視点から読み解きます。

糖尿病を持つ A さんの意思決定を支える ● 1077 ページ

患者数の多さ、疾病のメカニズム・経過など、「クロニックイルネス（慢性の病）」の典型ともいえる糖尿病ケア。そのなかでも重要なポイントとなる患者・医療者の意志決定を支えるプロセスについて、事例を交えて解説します。

慢性疾患看護専門看護師（CNS）が主導する

慢性看護連携システム構築とその課題 ● 1082 ページ

長期間にわたって患者をサポートしていかなければいけない慢性疾患の看護において、院内外の連携システム構築は最大の課題。慢性疾患専門看護師が主導する実際の連携をご紹介します。

慢性疾患としての HIV ケア——援助者ができること・できないこと ● 1086 ページ

「不治の病」から「クロニックイルネス（慢性の病）」となった HIV。そのケアモデルは当初から従来型の医療モデルとは異なるものでした。HIV ケアから、慢性疾患看護のモデルを学びます。

セルフヘルプグループと医療専門職 専門職の役割、非専門職者の役割 ● 1092 ページ

「病とともに生きる患者」。その支援を医療者だけが担うことはできません。当事者だからこそできることを知ることで、医療者は自らの限界とともに、医療者に期待されていることを知ることができるでしょう。

第 1 回日本慢性看護学会学術集会を開催して ● 1096 ページ

2007 年 8 月、兵庫県明石市において第 1 回の慢性看護学会が開催されました。そのもようを、第 1 回の学会長からご報告いただきました。